

経験的知見と科学的知見を融合した効果的・効率的な 校内研修リソースの開発

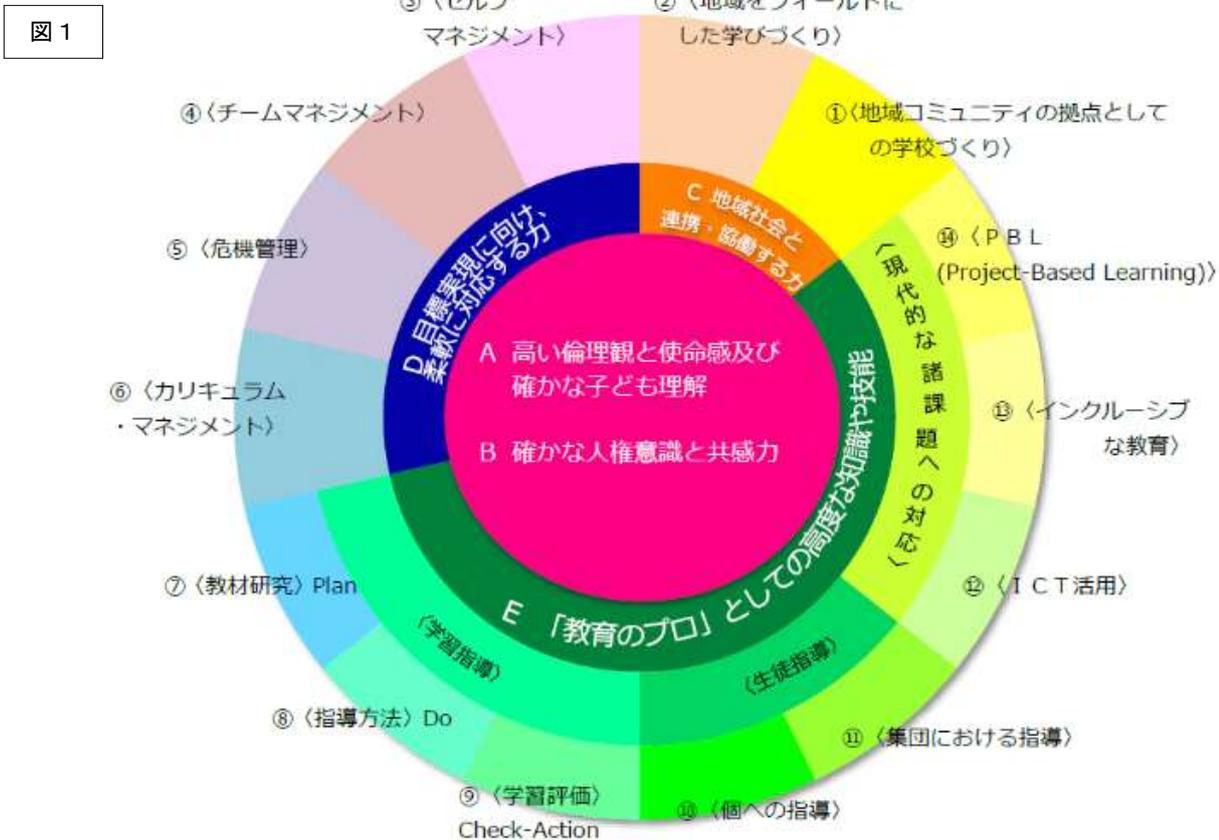
2019年度教員の養成・採用・研修の一体的推進事業に係る成果報告書

長野県教育委員会学びの改革支援課

令和2年2月

1 これまでの取組

(1) 長野県教員育成指標の活用を目指した平成 28 年度～平成 29 年度の取組



平成 28 年度は、総合的な教師力向上事業「教員育成指標等の策定のためのモデル事業」に参画し、従来の「長野県教員研修体系」に示した教員として求められる 5 つの資質能力を「理念指標：繰り返し自覚し絶えず意識化を図る資質能力」と「実務指標：経験や研修を積むことで高めていく資質能力」に整理した。

理念指標は「A：高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解」と「B：確かな人権意識と共感力」に、実務指標は「C：地域社会と連携・協働する力」、「D：目標実現に向け、柔軟に対応する力」、「E：『教育のプロ』としての高度な知識や技能」にそれぞれ分類した。このうち、実務指標に含まれる 3 つの資質能力を 14 のスキルに体系化し、各スキルに応じて研修プログラムが整理できるようにした（図 1）。

また、教員のキャリアステージを 4 期（Ⅰ：基礎形成期、Ⅱ：伸長期、Ⅲ：充実期、Ⅳ：次世代

育成期／管理職期）で設定し、スキルの高まりを「知識・技能の熟達」と「チームへの貢献」の 2 つの要素で捉え、14 のスキルそれぞれについて、各ステージの到達目標を明らかにすることで指標化した。

平成 29 年度は、教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業「民間教育事業者との連携による教員の資質能力向上事業」に参画し、「指標に基づき自ら学び続ける教員のキャリアシステム」を目指し、県教育委員会が実施する指定研修の枠組みを再構築し、各スキルに応じた研修プログラムを整備した。

なかでも、本県では十分な研修方法が確立されていなかったスキルとして、実務指標「E：『教育のプロ』としての高度な知識や技能」から「現代的な諸課題への対応」を図る〈PBL〉スキルと、実務指標「D：目標実現に向け、柔軟に対応する力」を図る〈チームマネジメント〉スキルに

ついて、民間教育事業者がもつ知識や経験を活用し、研修プログラムを共同開発した。

平成30年度は、平成30年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業「民間教育事業者との連携による教員の資質能力向上事業」に参画し、

「A 指標に基づく、自ら学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築」と、「B 学校現場のニーズに対応した研修プログラムの改良・検証」を民間教育事業者と連携して進めた。

(2) 長野県教員育成指標の活用を目指した平成30年度の取組

平成30年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業「民間教育事業者との連携による教員の資質能力向上事業」に参画し、「A 指標に基づく、自ら学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築」と、「B 学校現場のニーズに対応した研修プログラムの改良・検証」を民間教育事業者と連携して進めた。

A 指標に基づく、自ら学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築

昨年度、指定研修の位置付けを明確にし、キャリアステージに応じた校内研修体制の整備、県教育委員会の指定研究と免許状更新講習との連動による研修の充実や効率化を図ってきたが、限られた時間や資源の中で実施する各種研修が、より効果的・効率的なものとなり、自ら学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築が課題であった。

この課題を解決すべく、実務指標「E:『教育のプロ』としての高度な知識や技能」に焦点を絞り、多くの学校が切実な課題として受け止めている日常の授業づくりや学級づくりに係るスキルを集約する試みとして、「信州型ユニバーサルデザイン（以下、「信州型UD」とする）」の構築を始めた。

構築にあたっては、授業づくりや学級づくりに係るスキルを身に付けることは困難であり、表面上に表れている諸問題の対処療法的なアプローチでは本質的な解決にはつながりにくいとの認識の基、表面的な問題を解決するのではなく、創造的で協働的な解の発想を目指してきた。

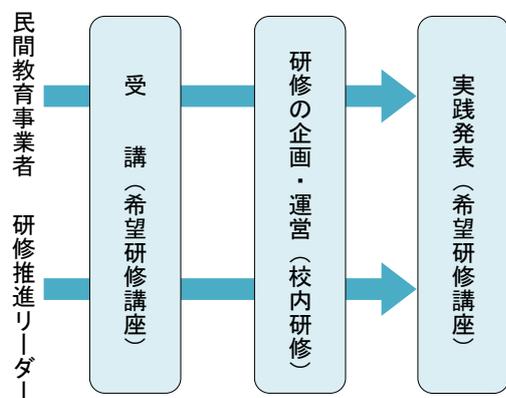
授業づくりや学級づくりの本質的で根幹的な部分に焦点をあてて構築を図るため、信州型UD作成委員会（小・中学校の校長1名、教頭1名、教員15名、指導主事8名）が作成した信州型UDを学び合う研修ツールのプロトタイプを学校現場の教員に提供し、プロトタイプの改善点等を収集し更なる改善を加えた解決策を模索することを繰り返すことで、本質的な問題点を明らかにしてきた。

このように、県内教員と共に創り上げてきた信州型UDは、プロトタイプⅠ、プロトタイプⅡとブラッシュアップを重ねた。その結果、信州型ユニバーサルデザインは、日常の授業を子どもの視点で振り返り、授業づくりや学級づくりに係る気付きや疑問を交流し、新たな試みへつなぐというビジョンを明確にしてきたところであり、プロトタイプⅢを「信州型UD1.0」と位置付けた。

「信州型UDカード（図2）」は、日常の授業でよく行われていそうな実践等について「子どもの視点」で掘り下げて考え、互いの実践を見直し語り合うことを通して、心に留めておきたいことや新たに試みたい実践を明らかにするための研修ツールである。この開発にあたっては、「これらの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申、中教審第184号）」に指摘されているように、かつてのように先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承をうまく図れない状況があり、経験年数の異なる教員同士が日常的に学び合う校内研修の充実

民間教育事業者は〈チームマネジメント・スキル〉研修プログラムの改良を図るとともに、研修推進リーダーは、〈チームマネジメント〉の資質能力を高めることができた。

図3



従来の、県総合教育センターに教員が集合して実施するような研修（以下、「集合研修」と言う）は、参加した教員の身に付けた知識等が校内に広がりやすく、個人の知見として留まりがちな点が課題として指摘されてきた。しかしながら、今回のように集合研修で学んだ教員がその知識等を校内の教員へ還元するシステムは効果的・効率的であるとともに、研修推進リーダーにとっては身に付けた知識等をアウトプットする機会によってその知識はより精緻なものとなる。このような、集合研修で学んだ知識等を校内の教員へ還元するシステムを他の研修へ活用しているところである。

一方、県教育委員会では、集合研修の在り方についても課題として認識しているところである。例えば、県総合教育センターが本県のほぼ中心に位置しているとは言え、勤務地によってはセンターまでの往復にかなりの時間を要する。また、一斉講義が中心の研修であれば、集合研修にしなくとも、オンラインで代替できるものもあるのではないかと認識を持ち、eラーニング等に注目して新たな研修リソースの開発を進め、信州型UD1.0を県内全ての公立小中学校へ伝え、研修ツールである信州型UDカードを活用できるよう、民間教育事業者と共同して

「動画教材『信州型UD研修シリーズ』」動画コンテンツ5本を制作し、県教育委員会ホームページに掲載し、学校現場での活用を期待しているところである。従来のeラーニングコンテンツは、一斉講義を代替するものとして制作されるものが多いが、「動画教材『信州型UD研修シリーズ』」では、動画の一時停止や再生を繰り返すことで、教員が対話的に校内研修を進められるように工夫している。

この開発にあたっては、「これらの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申、中教審第184号）」に指摘されているように、児童生徒に新しい時代に求められる資質・能力を育成する上では、教員の研修そのものの在り方や手法の見直しが必要であり、eラーニングコンテンツであっても、一斉講義型から主体的・対話的で深い学びの要素を含んだアクティブ・ラーニング型研修への転換を図る必要がある。こうしたことを踏まえつつ、現在制作した対話的な学びの視点を含んだ「動画教材『信州型UD研修シリーズ』」を、主体的な学びの視点、深い学びの視点から見直し、校内研修等がより効果的・効率的に実施されるよう改善・充実を図ってきた。

さらに、「教員が日々の業務で様々な対応に追われる中においても、自己研鑽に取り組み、スキルアップを図っていくためには、ライフ・ワーク・バランスを良好に保ちながら、教員一人一人が他の教員と協働しつつ、学び続けるモチベーションを維持できる仕組みを構築することが重要（答申、中教審第184号）」と指摘されている。「動画教材『信州型UD研修シリーズ』」の改善・充実にあたっては、たとえ短時間の動画コンテンツであっても、ユーザーである教員に興味・関心を強く抱かせ、他の教員と交流し、学び続けるモチベーションを維持できるような情報発信の工夫について、民間教育事業者が独自に培ってきた知見を生かしつつ、制作を進めたいと考えてきた。

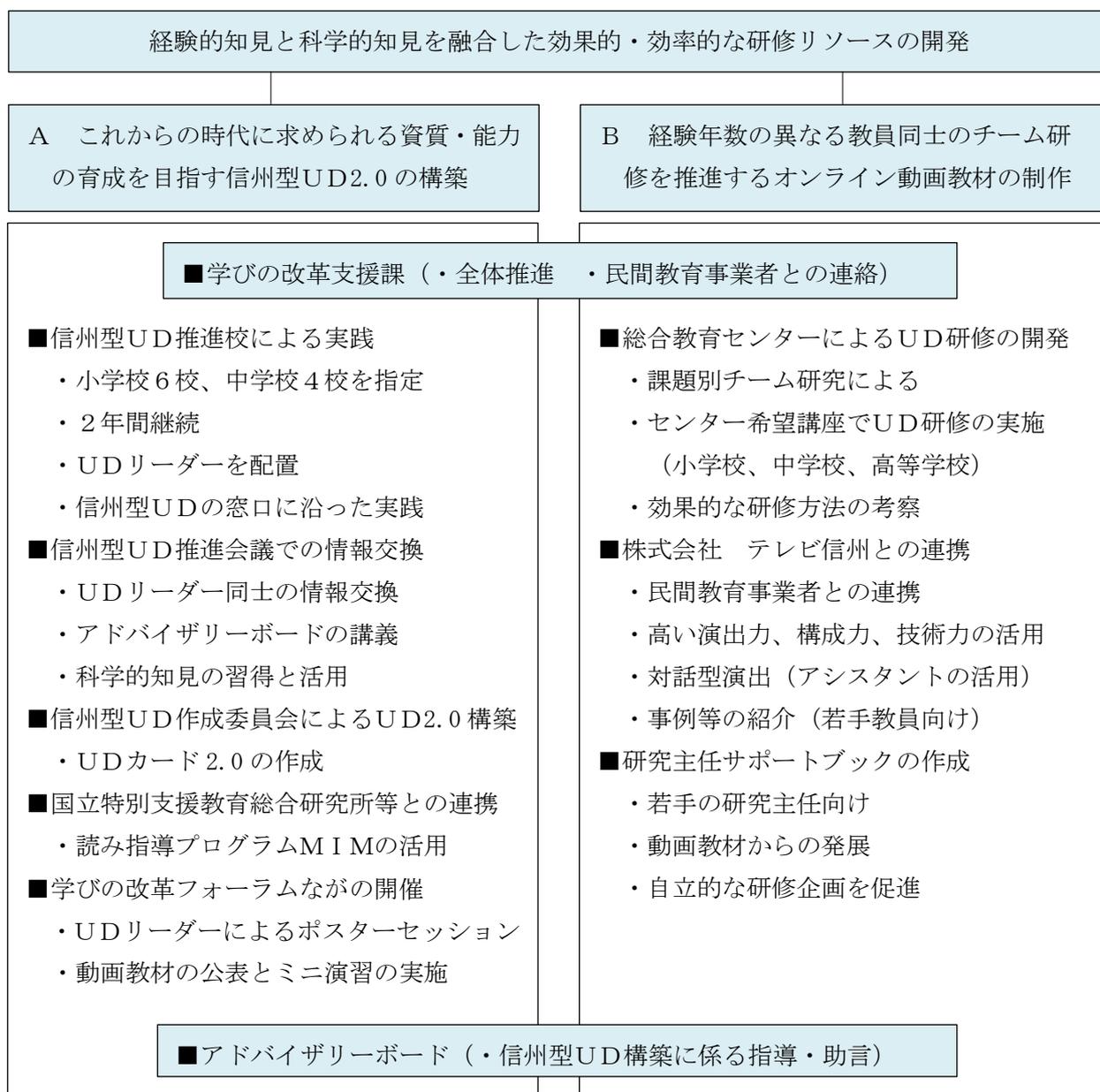
2 調査研究の目的・方法

(1) 調査研究の目的

県教育委員会では、県内全ての子どもたちが自分らしく学ぶことのできる授業づくり、学級づくりの基盤となる内容を育成指標と結び付け、「信州型ユニバーサルデザイン」として構築中である。昨年度は「全員が力を発揮し認め合う学級づくり」「授業がもっとよくなる3観点」「安心して参加できる授業の工夫」「教材研究の充実」という窓口から構築し、信州型UD1.0として位置付けた。

本年度は「主体的・対話的で深い学びの実現」「単元・題材レベルでの授業改善」「合理的配慮の提供」「子どもに応じた多様な学び方」という窓口から実践事例を蓄積し、信州型UD2.0として整理する。この過程においては、教員同士の交流により伝達可能な経験的知見と客観的根拠に基づいた科学的知見を融合するために民間教育事業者の知見を活用しつつ、効果的・効率的な校内研修リソースを開発する。

(2) 調査研究の方法



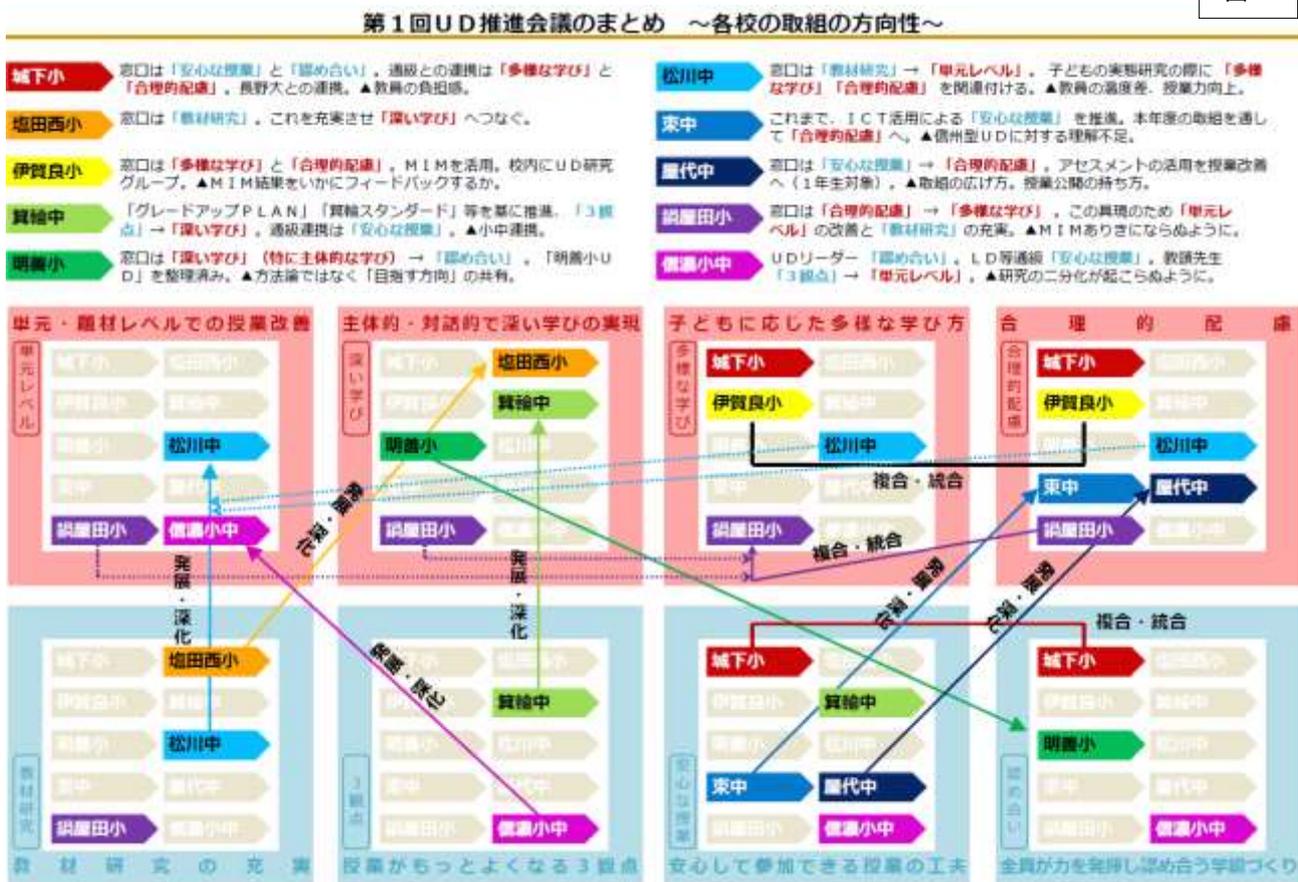
3 取組のポイント・成果

A これからの時代の教員に求められる資質能力の向上を目指す信州型 2.0 の構築

(1) UD推進校による科学的知見の活用

ア UD推進校の取組の方向性

図 4



本年度より、信州型UDに基づく授業づくりや学級づくりの実践的な研究を実施するため、県内10校を信州型UD推進校として配置した。図4は、第1回UD推進会議で明らかになった取組の方向性を取りまとめたものである。この図より、10校の取組は「発展・深化モデル」と「複合・統合モデル」に分類される。

「発展・深化モデル」は、UD1.0の窓口からUD2.0の窓口への発展・深化を志向するモデルであり、「新学習指導要領対応ケース（塩田西小、松川中、箕輪中、信濃小中）」「個の学び対応ケース（東中、屋代中）」「ビジョンの深掘りケース（明善小）」に分類される。これらの学校の取組は、これまで大切にしてきた実践等を

ベースに新たな学びを創り出すモデルとなり得ると考えられる。

「複合・統合モデル」は、窓口を複合・統合し、個の学びへの対応を志向するモデルであり、経験的知見のみでは対応できない、科学的知見を活用したモデルとなり得ると考えられる。伊賀良小、城下小、鍋屋田小では、多層指導モデル（MIM）を活用し、科学的根拠に基づいたアセスメントを実施し、授業づくりや学級づくりにつなげている。

これら信州型UD推進校の実践の成果は、年間5回実施するUD推進会議にて共有するとともに、信州型UD2.0に係るUDカードの作成等に活用してきた。

イ 多層指導モデル（MIM）の活用

科学的知見の活用例として、UD推進校では「多層指導モデルー Multilayer Instruction Modelー（以下、「MIM」とする。）」を導入してきた。

MIMは、通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援をしていこうとするモデルであり、特に子どもが学習につまずく前に、また、つまずきが深刻化する前に指導・支援をしていくことを目指している（「通常の学級における学習のつまずきの早期把握ー早期支援ー多層指導モデルMIMを通じてー」（海津亜希子、「第1回UD推進会議講義資料」より）。

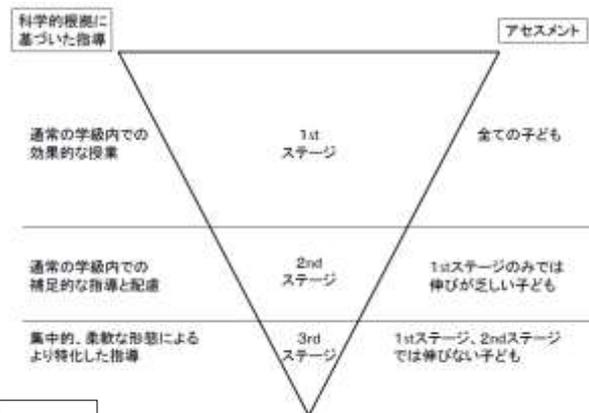


図5 通常の学級における多層指導モデルMIMにおける重要な要素

MIMの指導は、図5のように3つのステージに分かれて行われる。

「きって」や「おとうさん」のように、促音や拗音などの特殊音節を速く正確に読めるように、1stステージでは、動作化や視覚化を取り入れた特殊音節の全体指導を行う。

2ndステージでは、通常の学級での指導に加え、毎月のテスト（MIM-PM）の結果、理解の伸びが十分でない子どもに対して、通常の学級内で補足的な指導や配慮（座席の配慮、机間指導の重点化、個別や小集団指導など）を実施する。

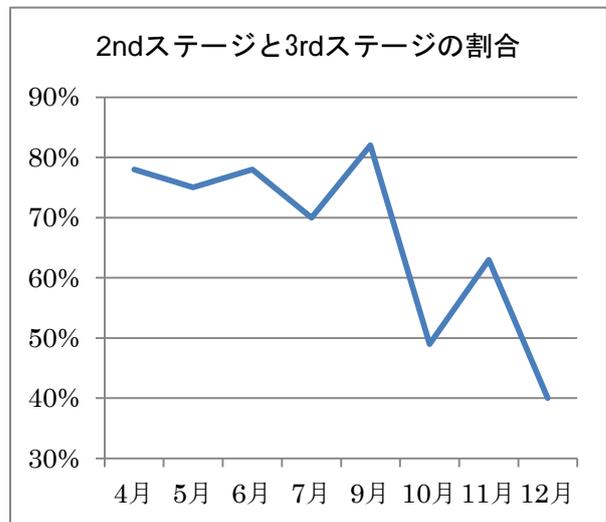
3rdステージでは、2ndステージによる指導や配慮を実施しても伸びが見られない子どもに対して、通常の学級内外において、補足的、集

中的に個に応じた指導を行う。

MIMで学習対象とする特殊音節は、他の仮名文字のように、文字と音とが一対一に対応しないため、頭の中での音の操作が困難な子どもにとって難しく、通常の学級に4.5%の割合（クラスに1～2人）で在籍するとされるLD（学習障害）様の子どもは、特殊音節の習得に低学年段階からつまずきを示すことがあるとされている（海津亜希子、「第1回UD推進会議講義資料」より）。

このような科学的根拠に基づいたアセスメントを実施し、授業改善につなげたUD推進校では、2ndステージ「通常の学級内での補足的な指導と配慮」が必要な児童と、3rdステージ「集中的、柔軟な形態による、より特化した指導」が必要な児童の割合が、4月当初は78%であったのが12月には40%に減少した（図6）。

図6



主に小学校で実施された多層指導モデルを活用した実践は、教員同士でこれまでの取組の経験的知見を共有しつつも、経験的知見のみでは解決できない課題を把握するとともに科学的知見を習得・活用する必要性への気付きにつながった。また、これらの実践について、学びの改革フォーラムなのでポスターセッションにより発表した。

(2) アドバイザリーボードによる助言

本年度、信州型UD2.0の構築にあたり、UD推進会議、県外視察研修、学びの改革フォーラムなどの等において、アドバイザリーボードの講義等から最新の知見を収集してきた。

期日	会場	テーマ	講師
4月25日 (木)	長野県総合教育センター	効果的な個に応じた指導について	国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 海津亜希子先生
6月12日 (水)	長野県総合教育センター	発達障がい等があり特別な配慮が必要な児童生徒への支援	株式会社 LITALICO スーパーバイザー 畑野 英奈 先生 前田さおり 先生
8月26日 (月)	長野県総合教育センター	発達障がい等があり特別な配慮が必要な児童生徒への支援の事例検討	西東京市立住吉小学校 教諭 栗原 光代 先生 信州大学教育学部 助教 下山 真衣 先生
11月17日 (日)	(独) 教職員支援機構	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた演習	独立行政法人教職員支援機構 次世代教育推進センター フェロー 宮迫 隆浩 先生
11月18日 (月)	川崎市立川崎小学校	カリキュラム・マネジメントの実現に向けた演習・授業参観等	川崎市立川崎小学校 校長 中臣 信丈 先生 川崎小学校の先生方
11月19日 (火)	西東京市立住吉小学校	効果的な個に応じた指導について・授業参観等	西東京市立住吉小学校 校長 室宮 茂穂 先生 住吉小学校の先生方
1月21日 (火)	堀金総合体育館	学習者視点で授業を捉えるということ	東京学芸大学教職大学院 准教授 渡辺 貴裕 先生

また、信州型UD2.0の構築にあたり、以下の先生方にプロトタイプに関する意見をいただいた。

所属・役職等	氏名
信州大学教職大学院 教授	伏木 久始 先生
大妻女子大学家政学部・講師	坂田 哲人 先生
一般財団法人軽井沢風越学園設立準備財団・理事長	本城慎之介 先生
一般財団法人軽井沢風越学園設立準備財団・副理事長	岩瀬 直樹 先生
國學院大學人間開発学部・教授	田村 学 先生

(3) UDカードを10枚から20枚へ

図7

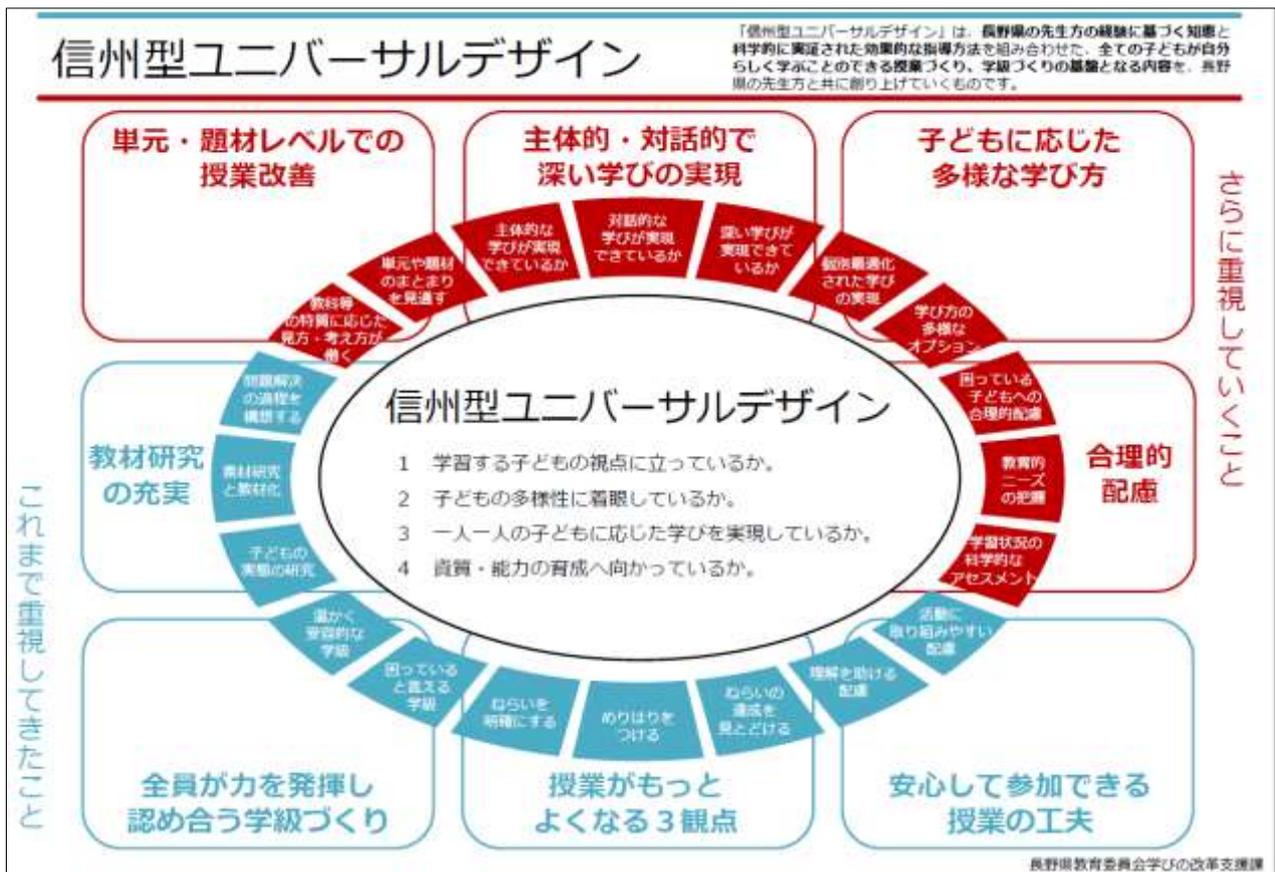


図7は、昨年度構築した信州型UD1.0と本年度構築した信州型UD2.0を整理した全体像である。

昨年度は、信州型UD1.0の構築を通して、「1 学習する子どもの視点に立っているか」「2 子どもの多様性に着眼しているか」「3 一人一人の子どもに応じた学びを実現しているか」「4 資質・能力の育成へ向かっているか」という、全ての子どもが自分らしく学ぶことのできる授業づくり、学級づくりを実現するために大切に考えていきたい点が明確になった。

この点については、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申、中教審第184号）」に指摘される「教員一人一人が、子供たちの発達の段階や発達特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと教科等の学習内容、単元の構成や学習の

場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら工夫して実践できるようにすることが重要である」との視点と重なるところであり、信州型UD2.0の構築にあっても重視してきた点である。

また、昨年度は、「全員が力を発揮し認め合う学級づくり」「授業がもっとよくなる3観点」「安心して参加できる授業の工夫」「教材研究の充実」という4つの窓口から、10枚の着眼点をUDカードにまとめ、研修ツールとして提供した。

本年度は、この10枚に加えて、「単元・題材レベルでの授業改善」「主体的・対話的で深い学びの実現」「合理的配慮の提供」「子どもに応じた多様な学び方」という4つの窓口から、信州型UD推進校等の授業実践事例を収集・分析し、新たに10枚のUDカード（図8～図17）にまとめ、県教育委員会ホームページに公表した。

資料集のカード2.3
No.11 主体的な学びが実現できているか

主体的・対話的で深い学びの実現

主体的な学びが実現できているか

たとえば、子どもからの「問い」を基にして授業を進めたのに、次のような子どもの姿を目にすることはないか、振り返ってみましょう。

ある

自分から調べたり友と関わったりする姿が見られない。

ある

一つ一つの活動について、何をやればよいか聞いてくる。

／こんな姿も

この姿が生まれる理由を「子どもの視点」から振り返ってみましょう。

ある

その子にとって解決していきたい「問い」になっていないでしょうか？

ある

その子は追究の方法や見通しを持って活動していたのでしょうか？

／こんな理由も

「子どもの視点」に立って、自分の実践を見直してみよう。

図 8

資料集のカード2.3
No.11 主体的な学びが実現できているか

「子どもの視点」に立って見直した内容を交差してみましょう。

／メモ

【参考】「主体的な学び」の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。 (文部科学省「小学校学習指導要領解説 総論編」平成29年4月)

試みたいこと

「主体的な学びが実現できているか」という着眼点で「子どもの視点」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)

長野県教育育成指標との関連

「主体的な学びが実現できているか」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の〈学習促進〉⑤〈指導方法〉Doに関連しています。

図 9

資料集のカード2.3
No.12 対話的な学びが実現できているか

主体的・対話的で深い学びの実現

対話的な学びが実現できているか

たとえば、ペア学習やグループ学習を位置付けたのに、次のような子どもの姿を目にすることはないか、振り返ってみましょう。

ある

予定していたグループ学習の時間が、いつもオーバーしてしまう。

ある

対話のツールを使っているのに、考えが深まっていかない。

／こんな姿も

この姿が生まれる理由を「子どもの視点」から振り返ってみましょう。

ある

話し合う内容が焦点化されていないなどの話しづらさはありませんか？

ある

ツール等の方法が問題ではなく、話し合うテーマに必然性が足りないのでは？

／こんな理由も

「子どもの視点」に立って、自分の実践を見直してみよう。

資料集のカード2.3
No.12 対話的な学びが実現できているか

「子どもの視点」に立って見直した内容を交差してみましょう。

／メモ

【参考】「対話的な学び」の視点

子供同士の感染、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手帳なりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。 (文部科学省「小学校学習指導要領解説 総論編」平成29年4月)

試みたいこと

「対話的な学びが実現できているか」という着眼点で「子どもの視点」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)

長野県教育育成指標との関連

「対話的な学びが実現できているか」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の〈学習促進〉⑤〈指導方法〉Doに関連しています。

図10 深い学びの実現

主体的・対話的で深い学びの実現

深い学びが実現できているか

たとえば、**習得と活用を位置付けるなど学習プロセスを工夫したのに**、次のような子どもの姿を目にすることは少ないが、**振り返ってみましょう**。

ある

子どもから「なぜ」「どうして」の音が聞こえてこない。

ある

個別の・事実に基づいた知識しか身に付いておらず、活用できない。

こんな姿も

この姿が生まれる理由を「**子どもの視点**」から振り返ってみましょう。

子ども自身が試行錯誤できるような学習プロセスになっているでしょうか？

他者への説明やアウトプットが不足し、知識が繋がっていないのでは？

こんな理由も

「**子どもの視点**」に立って、自分の実践を見直してみましょう。

（研修実施日 年 月 日 氏名 ）

長野県教員育成指標との関連
「深い学びが実現できているか」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の（学習促進）⑤（指導方法）Dcに関連しています。

図 10

図11 深い学びの実現

「**子どもの視点**」に立って見直した内容を交流してみましょう。

／メモ

【参考】「深い学び」の視点
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。
（文部科学省「小学校学習指導要領解説 総論編」平成29年4月）

【参考】「深い学びが実現できているか」という観点で「**子どもの視点**」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと。新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

（研修実施日 年 月 日 氏名 ）

長野県教員育成指標との関連
「深い学びが実現できているか」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の（学習促進）⑤（指導方法）Dcに関連しています。

図 11

図12 単元・題材レベルでの授業改善

教科等の特質に応じた**見方・考え方が働く**

たとえば、**学習を進める上でのポイントや問いを立てたのに**、次のような子どもの姿を目にすることは少ないが、**振り返ってみましょう**。

ある

答えが出て、それが正しい理由やその意味を考えようとしていない。

ある

一面的な考えや方法でしか学ぼうとしていない。

こんな姿も

この姿が生まれる理由を「**子どもの視点**」から振り返ってみましょう。

教科の学習に必要な概念形成や意味を考える経験が少ないのではありませんか？

複数の考え方や学び方があることを知る経験が少ないのではありませんか？

こんな理由も

「**子どもの視点**」に立って、自分の実践を見直してみましょう。

（研修実施日 年 月 日 氏名 ）

長野県教員育成指標との関連
「教科等の特質に応じた見方・考え方が働く」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の（学習促進）⑤（教材研究）Dcに関連しています。

図13 単元・題材レベルでの授業改善

「**子どもの視点**」に立って見直した内容を交流してみましょう。

／メモ

【参考】「見方・考え方」を働かせること
深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。
（文部科学省「小学校学習指導要領解説 総論編」平成29年4月）

【参考】「教科等の特質に応じた見方・考え方が働く」という観点で「**子どもの視点**」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと。新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

（研修実施日 年 月 日 氏名 ）

長野県教員育成指標との関連
「教科等の特質に応じた見方・考え方が働く」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の（学習促進）⑤（教材研究）Dcに関連しています。

単元・題材レベルでの授業改善
単元や題材のまとまりを見通す

たとえば、**単元全体を貫くような学習課題を立てたのに**、次のような子どもの姿を目にすることはないか、**振り返って**みましょう。

ある

「先生、今日の授業は何をやるの?」と聞いてくる。

ある

前時までに学んだことを活用したり発想したりしていない。

／こんな姿も

この姿が生まれる理由を「**子どもの視点**」から**振り返り**てみましょう。

ある

子どもにとっては、1時間ごとの学習内容がバラバラになっていませんか?

ある

その活動に、学んだことを活用したり発想したりする必要感があるでしょうか?

／こんな理由も

「**子どもの視点**」に立って、自分の実践を見直してみましょう。

図 12

「**子どもの視点**」に立って見直した内容を**交流**してみましょう。

／メモ

【参考】単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した授業改善
 1 回 1 回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかを考え、実践を深めていくものであること。
(訂正) 小学「小学の学習指導要領解説 総論編」平成29年4月

試みたいこと 「単元や題材のまとまりを見通す」という着眼点で「**子どもの視点**」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

〈研修実施日 年 月 日 氏名 〉

長野県教員育成指標との関連
 「単元や題材のまとまりを見通す」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の〈学習支援〉②〈教材研究〉Planに関連しています。

図 13

合理的配慮
学習状況の科学的なアセスメント

たとえば、**定期的なアセスメントを個別指導に生かしているのに**、次のような子どもの姿を目にすることはないか、**振り返って**みましょう。

ある

集団の中になると、自信のない表情などが見られる。

ある

集団の中になると、授業中の立ち歩きがなかなか止まらない。

／こんな姿も

この姿が生まれる理由を「**子どもの視点**」から**振り返り**てみましょう。

ある

少しずつできるよになっていることを認められている実感はあるでしょうか?

ある

分からない状態のまま、集団の中で授業が進んでいるのではありませんか?

／こんな理由も

「**子どもの視点**」に立って、自分の実践を見直してみましょう。

「**子どもの視点**」に立って見直した内容を**交流**してみましょう。

／メモ

【参考】多層指導モデル MIM
 MIMは、Multilayer Instruction Model の略で、多層指導モデルという意味です。多層指導モデル MIMでは、通常の学級において、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供しています。(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「多層指導モデル MIM」)

試みたいこと 「学習状況の科学的なアセスメント」という着眼点で「**子どもの視点**」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

〈研修実施日 年 月 日 氏名 〉

長野県教員育成指標との関連
 「学習状況の科学的なアセスメント」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の〈現代的な諸課題への対応〉③〈インクルーシブな教育〉に関連しています。

道徳教育のカード2.0
No.17 教育的ニーズの把握

合理的配慮

教育的ニーズの把握

たとえば、切り替えが苦手な子のためにタイマーを使ったのに、次のような子どもの姿を目にすることはないが、振り返ってみよう。

ある
□

活動の終了を告げると不満そうな表情を見せる。

□

次の活動に対して、先生の指示がないと動けない。

／こんな姿も

この姿が生まれる理由を「子どもの視点」から振り返ってみよう。

□

用意したタイマーは、子どもではなく先生のニーズによるものではありませんか？

□

次に用意した活動は、子どもにとってやりたくなる活動になっているのでしょうか？

／こんな理由も

「子どもの視点」に立って、自分の実践を見直してみよう。

図 14

道徳教育のカード2.0
No.17 教育的ニーズの把握

「子どもの視点」に立って見直した内容を交流してみましょう。

／メモ

【参考】共生に向けた「学び」の質の向上
 高齢指導や特別支援学級での指導を受ける児童生徒の割合が増加する中で、今まで以上に多くの教師が、単に障害のある児童生徒を「理解」するだけではなく、一人一人の障害に応じた適切な指導方法を選択・実践する能力も求められている。
（国立研究開発法人教育研究機構「共生に向けた「学び」の質の向上プラン」(平成31年4月)

試みたいこと 「教育的ニーズの把握」という着眼点で「子どもの視点」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)

長野県教員育成指標との関連
 「教育的ニーズの把握」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の（現代的な諸課題への対応）◎（インクルーシブな教育）に関連しています。

図 15

道徳教育のカード2.0
No.18 困っている子どもへの合理的配慮

合理的配慮

困っている子どもへの合理的配慮

たとえば、一方的な発言を繰り返す子どもの座席を最前列にしたのに、次のような子どもの姿を目にすることはないが、振り返ってみよう。

ある
□

静かにするのを我慢できなかつたり立ち歩いたりする。

□

先生が個別に伝えた指示どおりに活動ができない。

／こんな姿も

この姿が生まれる理由を「子どもの視点」から振り返ってみよう。

□

その子は、しゃべっていることを受け止めてもらえた実感を持っているのでしょうか？

□

先生の伝え方は、その子にとって本当に分かりやすくなっているのでしょうか？

／こんな理由も

「子どもの視点」に立って、自分の実践を見直してみよう。

道徳教育のカード2.0
No.18 困っている子どもへの合理的配慮

「子どもの視点」に立って見直した内容を交流してみましょう。

／メモ

【参考】子どもたちが学校で学びやすくなるための工夫「合理的配慮」
 子どもたち一人ひとり、誰もが違った個性を持っています。得意なこと苦手なこともある中で、中には、みんなと同じ方法、同じペースでは、学ぶのが難しい場合もあります。そんなとき、視力が悪い人がメガネをかけるように、その子にピッタリの方法が見つかれば、きっと学びやすくなるはずです。
（株式会社 LITALICO「学校での合理的配慮ハンドブック」2018年1月）

試みたいこと 「困っている子どもへの合理的配慮」という着眼点で「子どもの視点」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)

長野県教員育成指標との関連
 「困っている子どもへの合理的配慮」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の（現代的な諸課題への対応）◎（インクルーシブな教育）に関連しています。

研修資料カード2.0
No.21 学び方の多様なオプション

子どもに応じた多様な学び方
学び方の多様なオプション

たとえば、**単線的な追究方法ではなく複数の追究方法を用意したのに**、次のような子どもの姿を目にすることは少ないが、**振り返ってみましょう。**

ある



先生が用意した複数の追究方法から一つを選ぶとうとしない。

ある



自分で追究方法を選んだのに、粘り強く取り組めない。

／こんな姿も

この姿が生まれる理由を「**子どもの視点**」から振り返ってみましょう。

先生が想定した以外の方法や学びの場で追究してみたいのではありませんか？

どんなねらいでその方法を選んだのかを理解しているでしょうか？

／こんな理由も

「**子どもの視点**」に立って、自分の実践を見直してみよう。

図 16

研修資料カード2.0
No.21 学び方の多様なオプション

「**子どもの視点**」に立って見直した内容を交流してみましょう。

／メモ



【参考】多様な選択肢の中で自分自身の答えを見いだす学習
学校だけで教師だけが一方的に教えるような教育活動が転換され、多様な選択肢の中で、自分自身の答えを生徒が自ら見いだすことができるような学習が中心となる場へととなっていかねばならない。
(はな科学者Society5.0に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～)平成30年6月5日

試みたいこと 「**学び方の多様なオプション**」という着眼点で「**子どもの視点**」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)

長野県教員育成指標との関連
「**学び方の多様なオプション**」は、E「**教師のプロ**」としての高度な知識や技能の(学習指導)⑤(指導方法)Doに関連しています。

図 17

研修資料カード2.0
No.22 個別最適化された学びの実現

子どもに応じた多様な学び方
個別最適化された学びの実現

たとえば、**タブレット端末のデジタル教材で学びを個別化したのに**、次のような子どもの姿を目にすることは少ないが、**振り返ってみましょう。**

ある



困っている部分を個別指導しようとしたのに断わられてしまう。

ある



黙々と学んでいる子どもが、寂しそうに見えることがある。

／こんな姿も

この姿が生まれる理由を「**子どもの視点**」から振り返ってみましょう。

子どもは先生に対して、新しい関わり方を期待しているのではありませんか？

自分の力だけで乗り越えざるを得ない不安を抱えているのではありませんか？

／こんな理由も

「**子どもの視点**」に立って、自分の実践を見直してみよう。

研修資料カード2.0
No.22 個別最適化された学びの実現

「**子どもの視点**」に立って見直した内容を交流してみましょう。

／メモ



【参考】**学びの自立化・個別最適化**
「**学びの自立化・個別最適化**」とは、子ども一人ひとりの個性や特徴、そして興味関心や学習の到達度も異なることを前提にして、各自にとって最適で自立的な学習機会を提供していくことである。
(経済産業省「**未来の教室**」とedTech研究会 第2次提言) 2019年6月

試みたいこと 「**個別最適化された学びの実現**」という着眼点で「**子どもの視点**」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)

長野県教員育成指標との関連
「**個別最適化された学びの実現**」は、E「**教師のプロ**」としての高度な知識や技能の(学習指導)⑥(指導方法)Doに関連しています。

B 経験年数の異なる教員同士のチーム研修を推進するオンライン動画教材の制作

「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申、中教審第184号）」に指摘されるように、『「教員は学校で育つ」ものであり、教員の資質能力を向上させるためには、経験年数や職能、専門教科ごとに行われる校外研修の体系化」のみならず「日常的に学び合う校内研修」や「個々の教員が自ら課題を持って自律的、主体的に行う研修に対する支援のための方策」を講じる必要がある。

本年度、オンライン動画教材を制作するにあたっては、UD推進校等におけるUDカードを使った研修の実践事例、プロトタイプを試行事例を蓄積し、効果的・効率的な研修につながる

要素を抽出してきた。

一方、UDカードを使った研修方法に基づくオンライン動画コンテンツの制作にあたっては、民間教育事業者の高い演出力、構成力、技術力を活用し、質の高い動画教材を県内の教員へ提供する必要がある。そのポイントとしては、研修内容を正確に把握した上での動画制作、視認性を高めた分かりやすい表現、BGMや効果音等の挿入による全ての教員が飽きずに視聴する工夫、の3点であり、これらのポイントを実現した動画制作は県教育委員会では実現不可能であるため、県教育委員会と株式会社テレビ信州が連携し、質の高い動画教材を制作してきた。

(1) 動画研修シリーズを5本から21本へ

昨年度、「動画教材『信州型ユニバーサルデザイン研修シリーズ』」として、以下の動画コンテンツを制作し、YouTube「学びの改革支援課チャンネル」へ掲載するとともに、長野県教育委員会ホームページとリンクさせ、各校での研修で活用できるようにしてきた（図18、チラシ）。

図18

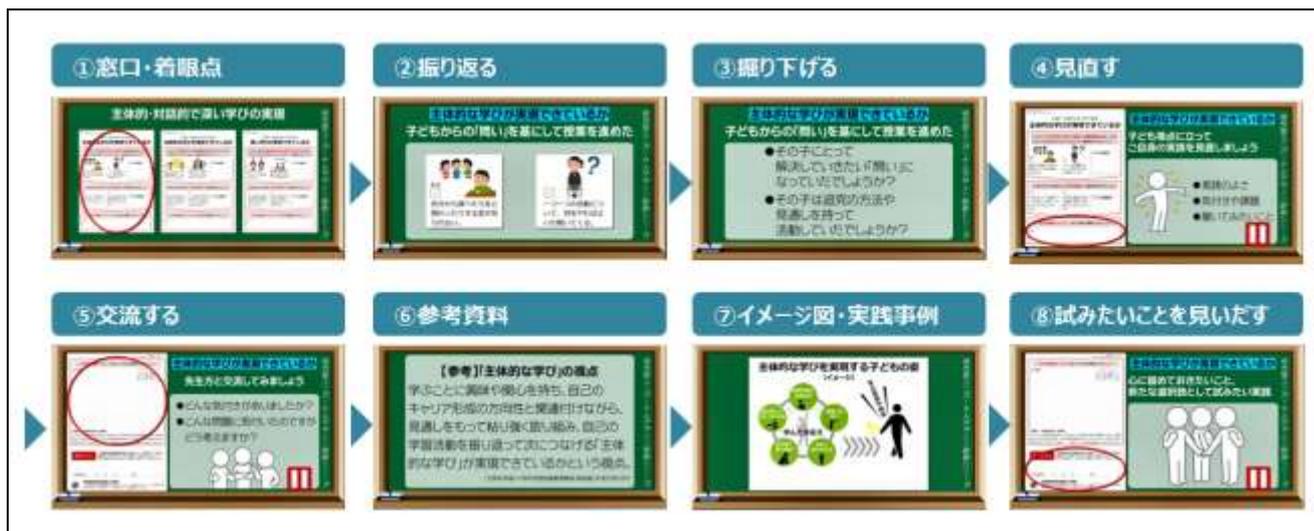


昨年度制作した、5本の動画教材は、「一時停止マーク」が表示された場面で動画を視聴する教員が一時停止することで、カードへの記入や教員同士の対話を可能とした。このことにより、研究主任等の経験が少ない若手教員であっても、本動画教材を活用してワークショップの進行ができるようになっている。このような工夫は、教員の若返りが進む中で、若手教員が自信を持って校内研修を進めることにつながるとともに、校内研修の準備に要する時間を大幅に短縮できるものである。本年度は、UD全体像（図7）に位置付く20の着眼点のどこからでも研修ができるよう、新たに16本の動画教材を制作した（「信州型UDの説明」を合わせて計21本）。

図19 (動画掲載の県教委ホームページ)



(動画教材の構成)



本年度新たに追加した 16 本の動画教材は、次のような構成になっている。

① 窓口・着眼点

- ・信州型UDの全体像（図 7）に位置付く窓口と着眼点を示している。

② 振り返る

- ・着眼点に沿って、「よく行われていそうな実践」を糸口にして、日常の子どもの姿を振り返る段階である。
- ・例えば、主体的な学びについて、子どもからの問いを基にして授業を進めたのに、子どものこんな姿が見られることはないか、という振り返りが可能である。

③ 掘り下げる

- ・このような姿が生まれる理由について、子どもの視点から掘り下げる段階である。
- ・例えば、主体的な学びについて、「その子どもにとって解決していきたい問いになってきたか」「その子どもは解決の見通し等を持って活動していたか」と、学習する子どもの視点に立った深い省察が可能である。

④ 見直す

- ・「②振り返る」「③掘り下げる」段階を経て、授業づくり、学級づくりに係る教員自身の実践を見直す段階である。
- ・動画では「一時停止マーク」を表示して、UDカードに記入できるようにしている。

⑤ 交流する

- ・子どもの視点に立って見直した内容について、教員同士で交流する段階である。
- ・対話の糸口として、「子どもの視点に立って実践を見直したら、どんな気付きがありましたか」「子どもの視点から掘り下げて考えたら、こんな問題に気付いたのですが、どう考えますか」のようなきっかけを提示している。
- ・「一時停止マーク」が表示される。

⑥ 参考資料（新）

- ・今回の研修シリーズで新たに追加した段階である。
- ・特に、経験的知見の少ない若手教員が自らの実践を参考資料と結び付けて考えられるように配慮している。

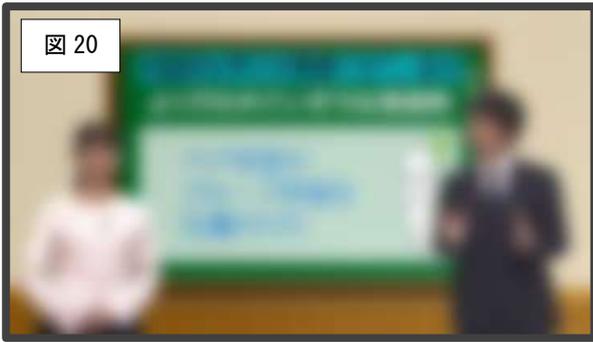
⑦ イメージ図・実践例（新）

- ・今回の研修シリーズで新たに追加した段階である。
- ・「主体的・対話的で深い学び」についてはイメージ図を、「その他」の窓口は信州型UD推進校等の実践を示している。
- ・⑥と同じく、若手教員を対象としている。

⑧ 試みたいことを見いだす

- ・心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践等をまとめる段階である。
- ・「一時停止マーク」が表示される。

(2) 説明型から対話型演出へ



今回、株式会社テレビ信州と連携して動画教材の制作を進めてきた。県教育委員会としては、「研修内容を正確に把握した上での動画制作、視認性を高めた分かりやすい表現、BGMや効果音等の挿入による全ての教員が飽きずに視聴する工夫」、の3点をコンセプトとして提示した

(3) ホームページ公表のみから体験型へ

昨年度は、動画教材を県教育委員会ホームページで公表したが、本年度は動画制作を年内に終わらせ、例年1月末に開催している「学びの改革フォーラムながの」で動画を紹介し、参加者である教員が動画教材を使った演習を体験することができるようにした。

実際に体験した参加者から以下のような意見があった。

- 実際にUDカードを使って短時間先生方とお話をしただけで、UDカードの効果を感じた。学校でも使っていきたい。
- 他教科の考えや悩みを聞くことができ、考えの幅が広がった。
- 自分で感じている悩みも、他の先生が感じていることと似ているなど感じられると少し安心した。
- 経験年数によって語りが変わる、3人組での交流がおもしろかった。
- 新学習指導要領全面実施を前に、主体的・対話的で深い学びのカードが発表され、学校現場での理解も益々深まると思う。
- 改良が重ねられ、とてもありがたい。カ

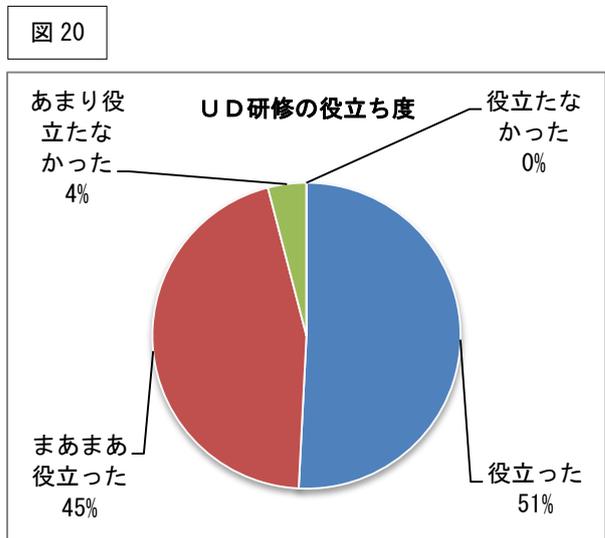
が、テレビ信州より「モデレーターとの掛け合いによる伝わりやすさの追究」が提案された。

これは、テレビ信州が、これまでのテレビ映像制作の中で培われた「伝わりやすさ」を念頭に置いたもので、県教育委員会の指導主事とモデレーター（元アナウンサー）の2名で映像構成をするもの（図20）である。

昨年度の動画は指導主事による「説明型」だったが、このように「対話型演出」を取り入れたことで、モデレーターが若手教員の代わりに「この部分を詳しくお願いします」などの合いの手を入れることが可能となり、教員が映像の最後まで自分ごととして視聴することができるようになった。

ード、ビデオ等、活用したい。

また、参加者アンケートの結果は以下のとおりであり（図20）、肯定的評価が96%であった。



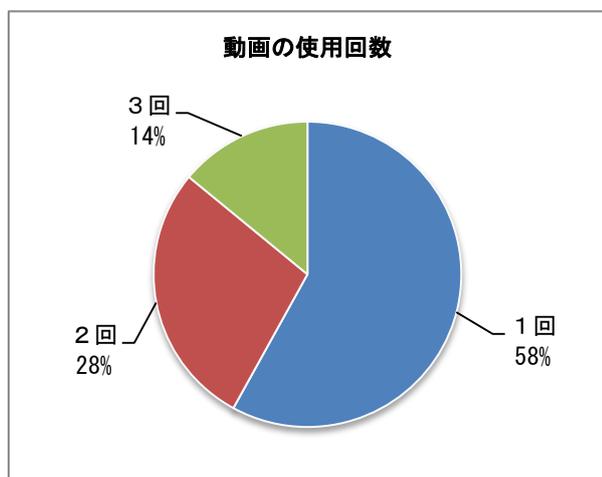
さらに、「令和元年度 学校運営についての調査実施まとめ（長野県教育委員会調べ）」によると、信州型UD研修を実施したことのある学校は100%であり、そのうち、動画教材を使用した研修が行われている学校は74.9%であることが分かっている。

4 今後の課題

(1) 研修の継続性について

経験的知見と科学的知見を融合した効果的・効率的な校内研修リソースとして、信州型UD 2.0 を構築し、新たな動画教材を制作したが、動画を使用した研修回数の調査において、半数以上の学校が1回のみ使用に留まっている(図21)ことが分かってきた(「令和元年度 学校運営についての調査実施まとめ(長野県教育委員会調べ)」)。

図 21



常に動画教材を使用する必要があるわけではないものの、信州型UDに基づく研修の継続性

については課題が残る。

そのため、当初計画していた「信州型UDガイドブック」の制作を、UD動画を使用せずに校内研修が可能となるような「研究主任サポートブック」の作成に変更した。

これは、研究主任による研修の自立的な企画を支援しようとするものであるため、当初の計画の年度末を待っての印刷・製本とはせずに、3学期開始直後の研究主任会で配布した。

(2) 若手教員のための研修コンテンツの開発

今回の事業を通して、改めて課題として捉えたことは、本県の若手教員の育成である。

UDカードを使った経験的知見の交流場面になると、語るべき知見が少ないせいも、自信のない様子だったり話を聞くだけに留まっていたりすることもある。

そこで、若手教員(県教員育成指標による基礎形成期相当(経験年数1~5年)の教員)を対象とした研修コンテンツを開発することで、若手教員が日常的に授業づくりや学級づくりの参考とできるようにしたいと考えている。

(参考資料)

- 長野県教育指導時報刊行会 (2018.4~2020.1) 『教育指導時報 No.824~No.845』
- 渡辺貴裕 (2019) 『授業づくりの考え方ー小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶー (くろしお出版)』
- 渡辺貴裕、岩瀬直樹 (2018) 『より深い省察の促進を目指す対話型模擬授業検討会を軸とした教師教育の取組 [論文]』
- 石井英真 (2018) 『授業改善8つのアクション (東洋館出版社)』
- 石井英真 (2017) 『教師の資質・能力を高める！アクティブ・ラーニングを超えていく「研究する」教師へ (日本標準)』
- 石井英真 (2017) 『小学校発アクティブ・ラーニングを超える授業 質の高い学びのヴィジョン「教科する」授業 (日本標準)』
- 石井英真 (2017) 『中教審「答申」を読み解く 新学習指導要領を使いこなし、質の高い授業を創造するために (日本標準)』
- 武田信子、金井香里、横須賀聡子 (2016) 『教員のためのリフレクション・ワークブック 往還する理論と実践 (学事出版)』
- 赤木和重、岡村由紀子 (2013) 『「気になる子」と言わない保育 こんなときどうする？考え方と手立て (ひとなる書房)』
- 井庭崇 制作・監修 (2016) 『アクティブ・ラーニングのためのパターン・ランゲージ《教師編》(ベネッセコーポレーション)』
- 海津亜希子他 (2008) 『通常の学級における多層指導モデル (MIM) の効果：小学1年生に対する特殊音節表記の読み書きの指導を通じて [論文]』
- 独立行政法人教職員支援機構 (2018) 『主体的・対話的で深い学びを拓く (学事出版)』
- 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成29年告示)』
- 文部科学省 (2017) 『中学校学習指導要領 (平成29年告示)』
- 長野県教育委員会 (2018) 『平成30年度 教育課程編成・学習指導の基本 (青本)』
- 長野県教育委員会 (2018) 『教員育成指標ガイドブック』
- 長野県教育委員会 (2019) 『特別支援教育 学習指導要領サポートブック』
- 長野県教育委員会 (2019) 『信州教育の学びの基盤』
- 長野県教育委員会 (2012) 『信州“Basic” 授業づくりのポイント』

2019年度 教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業に係る成果報告書
経験的知見と科学的知見を融合した
効果的・効率的な校内研修リソースの開発

令和2年2月発行

発行者 長野県教育委員会学びの改革支援課

〒380-8570 長野県長野市南長野幅下 692-2

電話 026-235-7434 (直通) FAX 026-235-7495